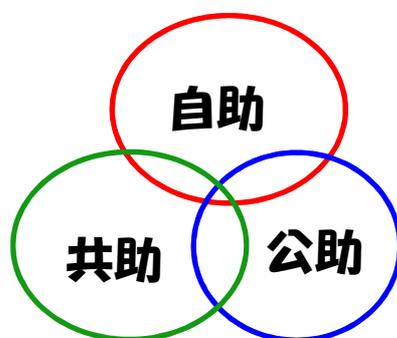


# 安城市校區別地震防災カルテ

## 学区：三河安城小学校区



自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

## 目 次

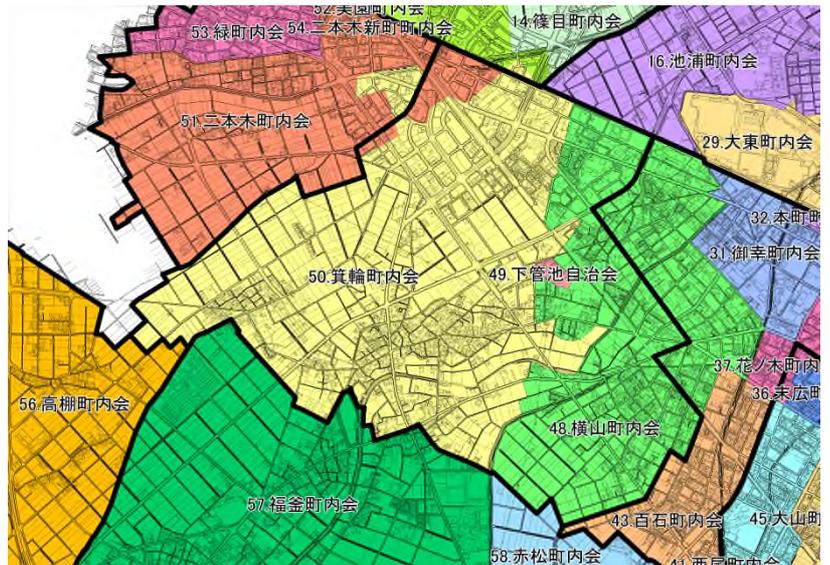
<b>三河安城小学校区のむかしと今</b> .....	<b>1</b>
<b>1. 校区の位置図</b> .....	<b>2</b>
<b>2. 校区の構成</b> .....	<b>2</b>
<b>3. 校区の概要</b> .....	<b>2</b>
<b>4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）</b> .....	<b>4</b>
<b>5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）</b> .....	<b>6</b>
<b>6. 防災関連施設</b> .....	<b>8</b>
<b>7. 避難所等一覧</b> .....	<b>9</b>
<b>8. 防災上の課題</b> .....	<b>9</b>
<b>9. 防災関連施設分布図</b> .....	<b>10</b>



## 1. 校区の位置図



校区面積約 3.55km<sup>2</sup>  
(安城市全体の 4.1%)



町内会区分図

## 2. 校区の構成

箕輪町、横山町〔赤子・石ナ曾根・下管池・八左・山田・横山・大山田下・大山田中(県道岡崎刈谷線以南)・毛賀知(県道岡崎刈谷線以南)・下毛賀知(県道岡崎刈谷線以南)・寺下(県道岡崎刈谷線以南)〕、三河安城町〔1丁目〕、三河安城東町、三河安城南町

## 3. 校区の概要

**【位置】** 三河安城小学校区は、市中心部のやや西に位置する。

西部のごく一部の地域は刈谷市との市境となっている。

**【土地】** 校区南部に長田川が流れている。氾濫時には注意が必要である。

標高は比較的高く平地が広がっている。

**【土地利用】** 西部に田畑が広がっており、鉄道や主要道路沿いに住宅や商業施設が集まっている。

**【交通】** 県道豊田一色線（12号線）と県道岡崎半田線（47号線）が校区の中心付近で交差している。他にも、県道道場山安城線（295号線）・県道小垣江安城線（296号線）が通っている。

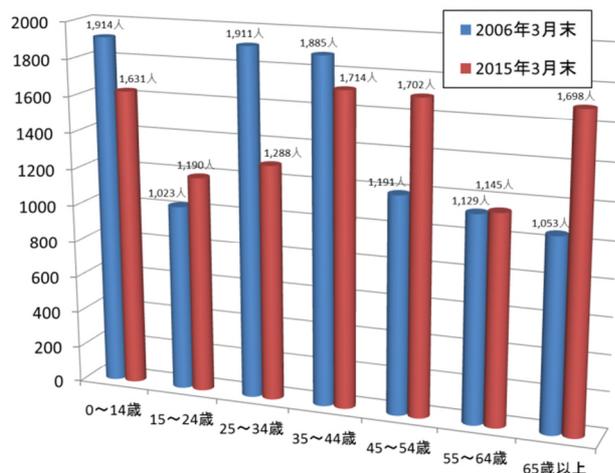
二本木小学校区との境界には東海道新幹線の三河安城駅、梨の里小学校区との境界には東海道本線のJR三河安城駅がある。

**【その他】** 町内会は、箕輪町内会、下管池自治会、横山町内会、二本木町内会

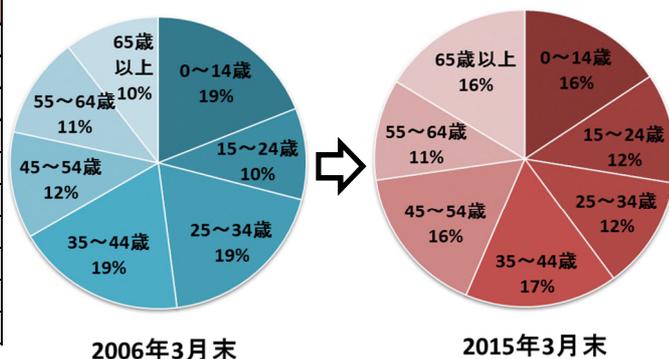
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,914人	19%
15～24歳	1,023人	10%
25～34歳	1,911人	19%
35～44歳	1,885人	19%
45～54歳	1,191人	12%
55～64歳	1,129人	11%
65歳以上	1,053人	10%
人口(合計)	10,106人	100%
人口密度	2,847人/km <sup>2</sup> (全市 2,013人/km <sup>2</sup> )	
世帯数	3,626世帯 (対全市 6.0%)	

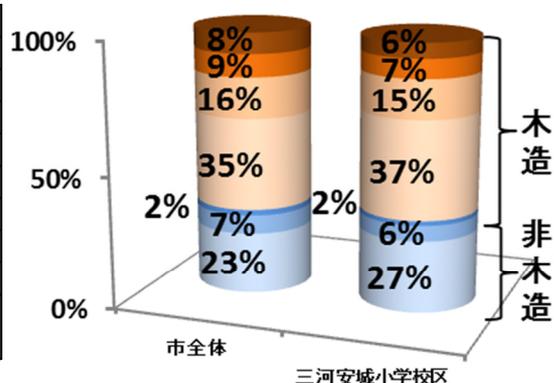


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,631人	16%
15～24歳	1,190人	12%
25～34歳	1,288人	12%
35～44歳	1,714人	17%
45～54歳	1,702人	16%
55～64歳	1,145人	11%
65歳以上	1,698人	16%
人口(合計)	10,368人	100%
人口密度	2,921人/km <sup>2</sup> (全市 2,151人/km <sup>2</sup> )	
世帯数	4,062世帯 (対全市 5.9%)	



【建物棟数】(2011年12月)

		建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	156棟	6%
	昭和37～46年	199棟	7%
	昭和47～56年	416棟	15%
	昭和57年以後	1,025棟	37%
非木造	昭和46年以前	48棟	2%
	昭和47～56年	164棟	6%
	昭和57年以後	760棟	27%
建物棟数(合計)		2,768棟	100%
1km <sup>2</sup> 当たりの建物棟数(校区/全市)		校区: 780 / 全市: 699(棟/km <sup>2</sup> )	



## 4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

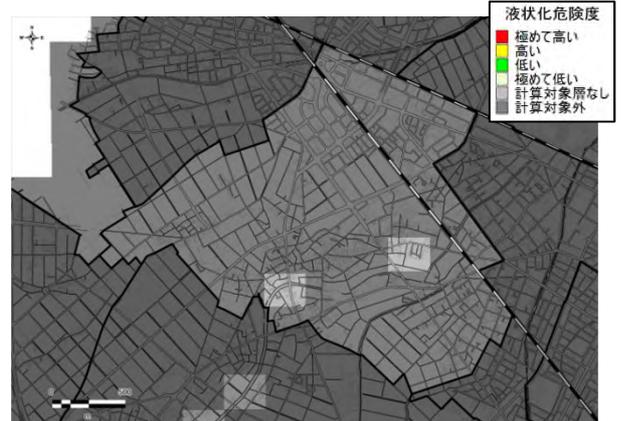
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



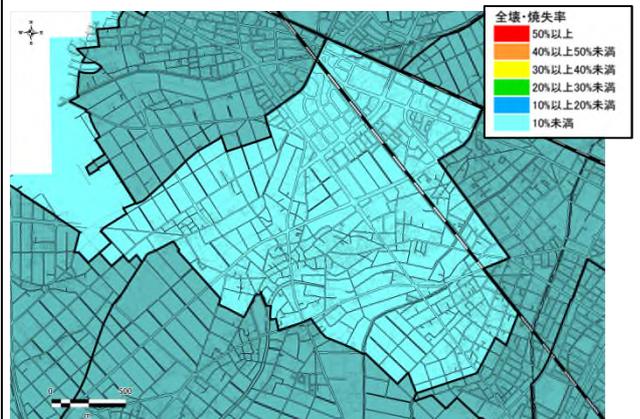
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



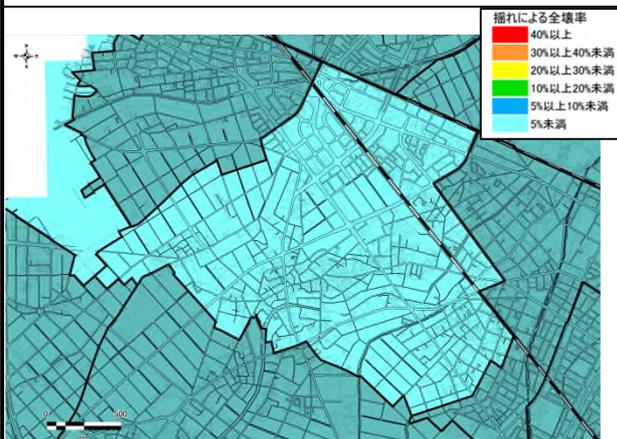
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



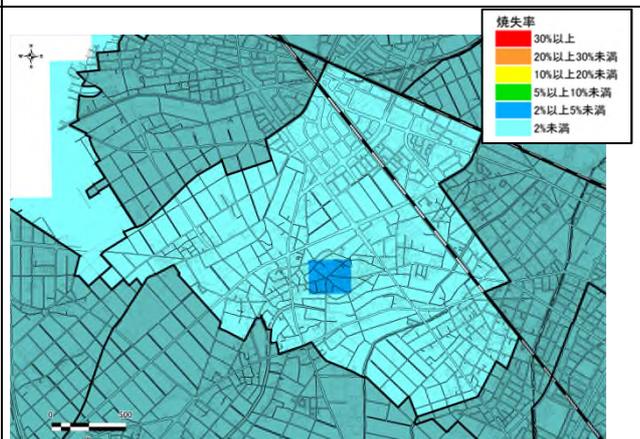
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



## 4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

三河安城小学校区は、震度6弱の揺れが想定されている。震度6弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。火災によって比較的多くの建物が焼失することが予測されているため、避難する際にはブレーカーを落とし、出火原因を減らすことが大切である。液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。J R三河安城駅周辺では、帰宅困難者が最大で約2,800人程度となる可能性があり、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

### <建物・人的被害の予測>

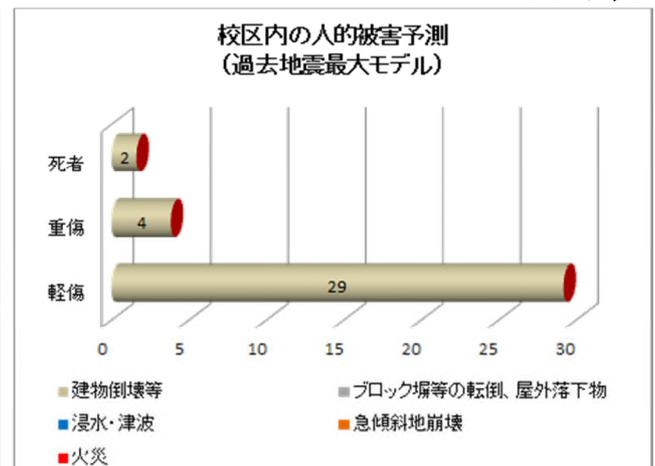
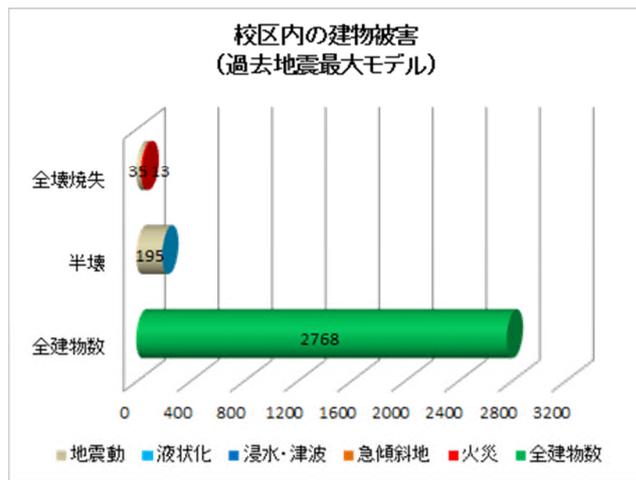
単位:(棟)

単位:(人)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,768棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	35	195
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	13	—
建物被害総数	48(1.7%)	195(7.1%)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口10,669人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	2	4	29
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(1)	(5)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	2(0.02%)	4(0.04%)	29(0.27%)

\*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

### <ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

### <避難者数の予測>

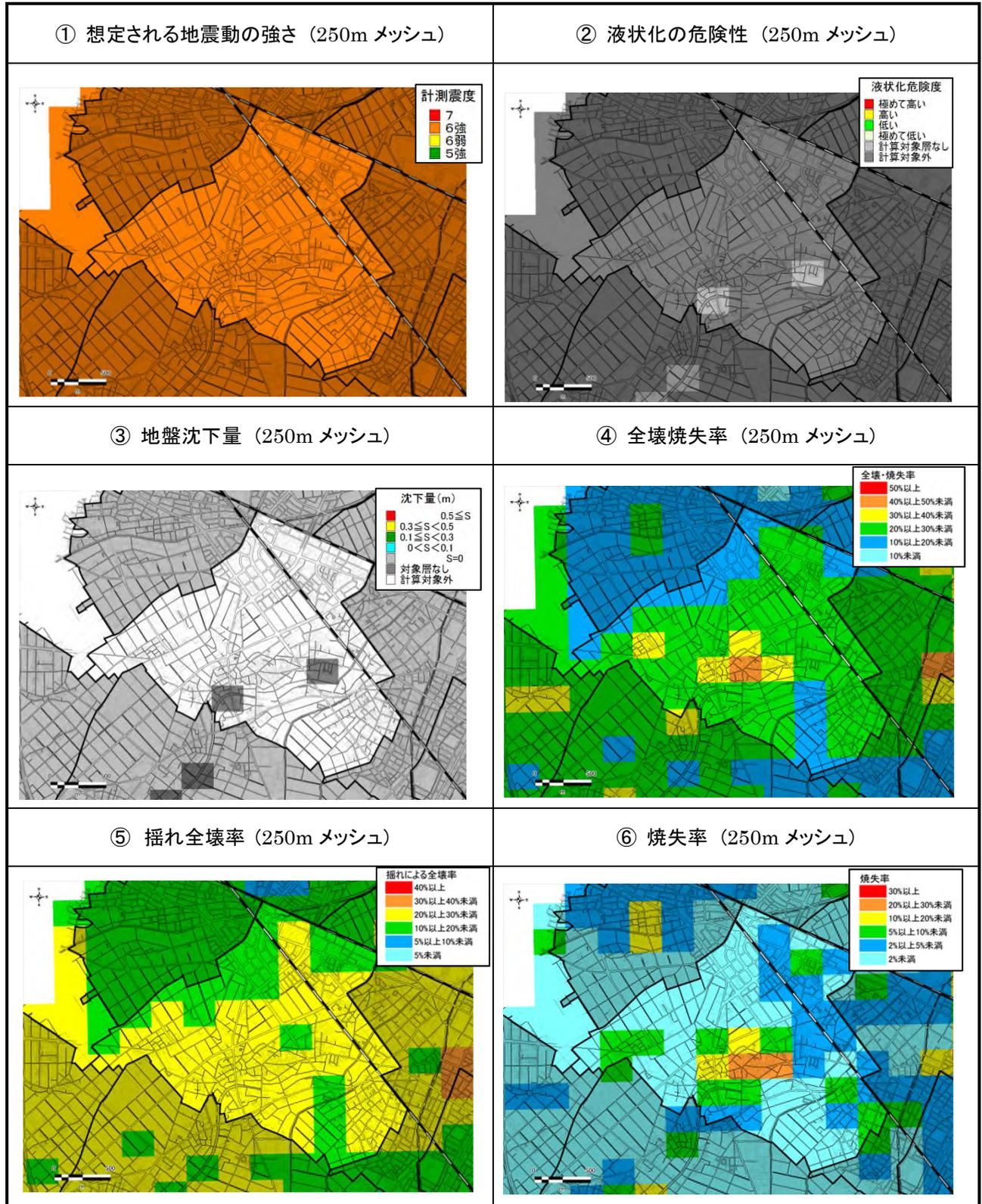
	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
三河安城小学校区	313	188	125	1,449	724	724	313	94	219
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

## 5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。



## 5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

三河安城小学校区は、震度6強の揺れが想定されている。震度6強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

火災によって比較的多くの建物が焼失することが予測されているため、避難する際にはブレーカーを落とし、出火原因を減らすことが大切である。

液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

帰宅困難者は、過去地震最大モデルでの想定と同様に見込まれるため、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

### <建物・人的被害の予測>

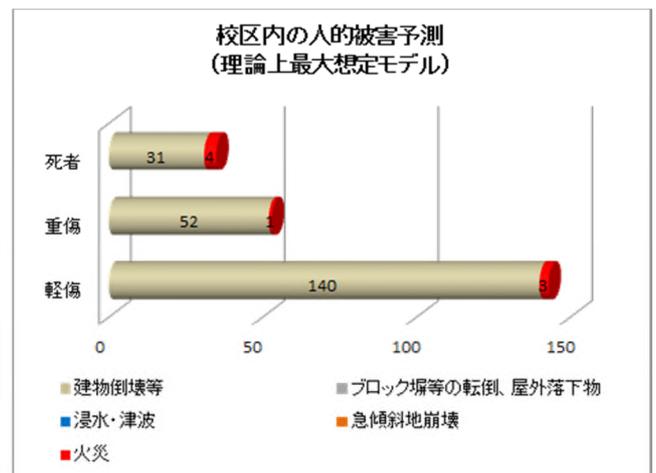
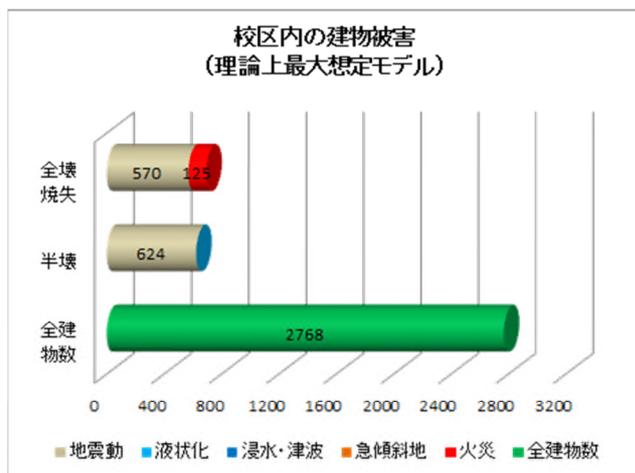
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,768棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	570	624
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	125	—
建物被害総数	695(25.1%)	624(22.5%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口10,669人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	31	52	140
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(2)	(11)	(39)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	4	1	3
被害者数合計	35(0.32%)	54(0.50%)	143(1.34%)

\* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

## 6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	三河安城駅前交番
緊急時ヘリポート可能箇所	—
消防署	—
消防団	箕輪分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	—
自主防災組織数	4
防災倉庫	三河安城小学校、みのわ保育園
応急給水施設	三河安城小学校
井戸	—
マンホールトイレ	三河安城小学校
学校	三河安城小学校
保育園	みのわ保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	—

※大規模災害時にのみ開設される救護所

## 7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	三河安城小学校	71-3250	箕輪町昭和 47	360
		みのわ保育園	75-1198	箕輪町屋下 35	50
臨時避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	臨時※	安城愛昇殿	79-0004	三河安城南町 1-1-16	—
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉特設※	特別養護老人ホーム アルクオーレ安城横山	72-6541	横山町赤子 10	—
避難場所等	区分	名称	所在地	面積[m <sup>2</sup> ]	
	一時	正福田公園	三河安城町 1-13-1	2,800	
		三河東町公園	三河安城東町 2-9-1	2,500	
		箕畔公園	三河安城東町 1-2-1	2,000	
		管池公園	三河安城東町 1-21-1	2,800	
		三河安城ツインパーク	三河安城南町 1-2-1	10,000	
		すりばち公園	三河安城東町 1-14-1	2,200	
		三河安城小学校	箕輪町昭和 47	5,000	
みのわ保育園		箕輪町屋下 35	550		

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

## 8. 防災上の課題

- ・昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 9%、理論上最大想定モデルで約 48%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 6 人、理論上最大想定モデルで 83 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- ・火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 125 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすため、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。
- ・JR 三河安城駅周辺では、帰宅困難者が最大約 2,800 人程度発生する可能性がある。一時的に滞在できる施設を確保するとともに、地震発生後しばらくの間は、安全が確保されるのであれば、職場や学校に留まるよう啓発することも重要である。





**平成28年8月配布  
安城市危機管理課**